

神の訪れの時
ルカの福音書 19：28～46

イントロ：

1. 2007年最後の月
 - (1) クリスマスの月
 - (2) 押し迫ったという感じ。時代の兆候が、終わりの様相を見せている。
 - (3) 「神の訪れの時」を感じる。
2. 先月の聖地旅行の3つの出来事
 - (1) アナポリス和平会議の最中で、緊張感があった。
 - (2) 「ユダヤ人は、イエスの十字架、復活、再臨のことをどう思っているか」
 - (3) 空港での出来事。
3. この原因は、2000年前のある出来事にある。
 - (1) 起源70年のエルサレム崩壊
 - (2) エルサレムが崩壊した原因は、イエスを拒否したことにある。
 - (3) イスラエルの歴史と現代の国際情勢は、2千年のスパンで考えないと理解不可能。
4. 日本の現状はどうか。
 - (1) 明治維新。
 - (2) 江戸時代、鎖国の時代。
 - (3) 1600年の関が原の戦い。
5. イスラエルの歴史上の3つの出来事を振り返ることによって、今何をすべきかを考える。
 - (1) 「神の訪れの時」を知らなかったという共通点がある。
 - (2) それでは、私たちはいかにすべきか。

3つの出来事

I. カデシュ・バルネア事件 民数記 13章、14章

1. カナンの地を目前に、モーセは12人のスパイを派遣した。
2. 40日間の調査。
3. 報告。
 - (1) 良い地である。
 - (2) ヨシュアとカレブは、征服可能と報告。
 - (3) しかし、残りの10人は、征服不可能と報告。
4. 全会衆は大声を上げて叫び、民はその夜、泣き明かした。
5. その結果、40年間の放浪がやって来る。
 - (1) 出エジプトの世代の死。
 - (2) ヨシュアとカレブだけが、カナンの地に入る。

II. マナセ王の治世 II歴代氏 33章

1. 南王国ユダの王ヒゼキヤの子。
2. その治世の55年間は、ユダの諸王の中で最も長い。
3. 高き所の再建、バアル祭壇とアシェラ像の造営、万象崇拜、人身犠牲、ト占、まじない、
霊媒、口寄せ、罪のない人の殺害など。
4. アッシリヤ王によりバビロンへ捕え移される。
5. 後にエルサレムに戻され、自ら墮落させた宗教を改革した。
6. しかし、彼は赦されたが、南王国ユダは、バビロン捕囚に引かれていく。

III. イエスの時代

1. 乙女マリアから誕生。
2. 神の国の到来を告げた。
3. イエスの宣教 全人的癒し
 - (1) 父なる神を礼拝することを教えた。
 - (2) 神のことばを教えた。
 - (3) 肉体の病を癒した。
4. イエスの宣教の総括
ヨハネ1:9~11
5. イエスの嘆き
 - (1) エルサレムの繁栄の中にある墮落。
 - (2) 40年後の、エルサレム崩壊を見ておられた。
 - (3) それ以降の2000年のユダヤ人の放浪生活を見ておられた。
 - (4) ホロコーストも見ておられた。
6. イスラエルは今、再び「神の訪れの時」を迎えている。
 - (1) イスラエルの救いは、再臨の前提条件。
 - (2) これからは、イスラエルの動向を無視できない。

結論 では、私たちはいかに生きるべきか。

1. 紀元70年以降のキリストの歴史
 - (1) 異邦人中心の教会
 - (2) 西回りのキリスト教
 - (3) ローマ、そしてヨーロッパ大陸全域に拡大。
 - (4) イギリスに拡大。
 - (5) 1620年、清教徒たちが北米に移住。米国に拡大。

(6) 19世紀は宣教の世紀。

(7) 20世紀はアジアの世紀。

(8) 21世紀は、イスラム教徒への伝道、そして、エルサレムに回帰する世紀。

2. 紀元70年以降の歴史

ヨハネ1：12～14

3. 日本の将来

(1) すべての民族に、必ず一度はキリストの季節が与えられている。

(2) 今が、「神の訪れの時」ではないか。

(3) ヨハネ1：12の真理は、単純。

(4) きょう、あなたから、始めよ。